

Take Free

2025.Oct

# ウマフリ東北

vol.6

秋号

with 馬と歴史と未来の会

## 特集

南部杯を6つの  
テーマで攻略!

## コラム

南部杯を制した「東北の皇帝」  
トーホウエンペラーをたずねて

## インタビュー

菅原勲調教師

岩手競馬を代表する超一流のホースマン

# 来る。南部杯が



## 岩手競馬 2025シーズン重賞・特別日程

10月

- ▽6回水沢  
10月5日(日) 重賞  
第12回 ヴィーナススプリント  
M3  
OP(牝)ダ1400m 1着賞金350万円
- 10月12日(日) 重賞  
第3回 ネクスター盛岡  
M1  
2歳ダ1400m 1着賞金1,000万円
- 10月13日(祝・月) 重賞  
第38回 マイルチャンピオンシップ  
南部杯  
JpnI 全国交流  
OPダ1600m 1着賞金8,000万円
- 10月19日(日) 重賞  
第25回 トバースカップ  
M2  
3歳ダ1800m 1着賞金500万円
- ▽10回盛岡  
10月26日(日) 重賞  
第41回 プリンセスカップ  
M1 地方競馬全国交流  
2歳(牝)ダ1400m 1着賞金500万円

11月

- 11月2日(日) 重賞  
第48回 すずらん賞  
M3  
OPダ1800m 1着賞金300万円
- ▽11回盛岡  
11月11日(火) 重賞  
第52回 南部駒賞  
M1 地方競馬全国交流  
2歳ダ1600m 1着賞金800万円
- 11月16日(日) 重賞  
第15回 絆カップ  
M2  
OPダ1200m 1着賞金400万円
- ▽7回水沢  
11月24日(振・月) 重賞  
第23回 寒菊賞  
M3  
2歳ダ1600m 1着賞金350万円
- 11月30日(日) 重賞  
第47回 北上川大賞典  
M2  
OPダ2500m 1着賞金500万円

12月

- ▽8回水沢  
12月14日(日) 重賞  
第24回 トウケイニセイ記念  
M2  
OPダ1600m 1着賞金400万円
- ▽9回水沢  
12月21日(日) 重賞  
第50回 金杯  
M2  
2歳ダ1600m 1着賞金400万円
- 12月31日(水) 重賞  
第49回 桐花賞  
M1  
OPダ2000m 1着賞金1,500万円

Credit  
冊子名:ウマフリ東北 With 馬と歴史と未来の会  
発行元:一般社団法人 馬と歴史と未来の会  
企画:上田優子(馬と歴史と未来の会)  
編集長:小早川涼風(ウマフリ)  
編集:緒方きしん(ウマフリ)  
写真:ライスサワー、青狸、緒方きしん 執筆:中川兼人、秀間翔哉、S.taka、小早川涼風、緒方きしん  
イラスト:泥子幸繁  
デザイン:遠田智子(ラッシュ)  
広告提供:株式会社エーカム、株式会社マイクロマガジン、株式会社ガイドワークス  
発行日:2025年10月1日

Umafree Tohoku 2

# 岩手競馬ニュース

## 一條記念みちのく大賞典をリケアカプチーノが勝利



一條記念みちのく大賞典を勝利したのは3歳馬リケアカプチーノ(牡3・菅原勲厩舎)。今年で53回目を迎える同競走だが、これが史上初となる3歳馬の勝利となった。

## マーキュリーカップ

マーキュリーカップはカズタンジャー(牡4・栗東:新谷功一厩舎)が優勝。自身と母の父アサクサキングスに初の重賞タイトルをプレゼントした。



## 不来方賞

不来方賞を制したのはナルカミ(牡3・美浦:田中博康厩舎)。昨年南部杯で「ゴドルフィンブルー」の勝負服を靡かせた偉大な先輩に続けるか。



## クラスタースタールカップで地方所属騎手が大活躍!



クラスタースタールカップはサンライズアムール(牡6・栗東:小林真也厩舎)に騎乗した高松亮騎手が勝利。同騎手はこれがダートグレード競走初勝利となった。2,3着にもホッカイドウ競馬所属の落合玄太騎手と大井競馬所属の笹川翼騎手が入線し、1着から3着までを地方競馬所属の騎手が独占した。



## 陶文峰調教師が開業。初勝利も

2025年3月9日、前年の12月1日に調教師免許を取得した陶文峰師が水沢3Rに管理馬メルティーショコラを出走させ、トレーナーとしてのデビューを果たした。翌日には初勝利も挙げている。



Umafree Tohoku 3

# 南部杯を6つのテーマで攻略！

これを読めば的中に近づく!?



中央の誇り、地方の意地が激突するマイルチャンピオンシップ南部杯。ここでは「人気」「馬齢」「所属」「脚質」「馬体重」「前走レース」と6つのテーマで分析し、攻略の糸口を探っていく。

## 1. 人気

- 1 番人気 …… [7-1-1-1]
- 2 番人気 …… [1-4-2-3]
- 3 番人気 …… [0-0-1-9]
- 4 番人気 …… [1-2-1-6]
- 5 番人気 …… [0-0-2-8]
- 6 番人気以下 …… [1-3-3-94]

1 番人気が近4年連続で勝利しており、過去10年で馬券圏外に敗れたのは、20年4着のサンライズノヴァのみ。3 番人気の好走例は22年3着のシャル



Umfree Tohoku 4

のみとなぜか不調だが、さほど気にする必要はないだろう。昨年も10 番人気のキタノヴィジョンが3 着に入ったように、2 着、3 着には伏兵の台頭も多い。1 番人気を軸に据える場合でも、ヒモはひと捻りが必要だ。

## 2. 馬齢

- 3 歳 …… [1-0-0-2]
- 4 歳 …… [0-1-1-16]
- 5 歳 …… [5-4-2-27]
- 6 歳 …… [3-5-3-32]
- 7 歳 …… [1-0-3-25]
- 8 歳以上 …… [0-0-1-19]

充実期を迎えた5 歳、6 歳が好成績を挙げている。昨年もレモンポップとペプチドナイルの6 歳馬によるワンツー決着だった。7 歳以上の勝利は、過去10年で17 年覇者のコパノリッキーだけ。15 年に9 歳馬のワンダーアキュートが3 着に入ったが、同年春にかしわ記念を制しており、年齢を感じさせない活躍を見せていた。基本的にはベテランよりも、中堅どころを軸に据えたい。

## 3. 所属

- JRA 栗東 …… [4-7-8-31]
- JRA 美浦 …… [6-2-1-8]
- 地方 …… [0-1-1-82]

JRA 所属馬が圧倒的。出走回数が少ないわりに美浦所属馬も好成績で、関東馬、関西馬の差はない。過去10 年で馬券に絡んだ地方馬は、20 年3 着の大井・モジアナフレイバー、23 年2 着の兵庫・イグナイターだけ。前者は東京大賞典3 着などの実績があり、後者はダートグレード重賞で3 勝を挙げていた。岩手所属馬は02 年のトーホウエンペラー、バンケーティング以来馬券に絡めておらず、徐々に地元の意地を見せたいところ。

## 4. 脚質

- 逃げ …… [3-3-0-7]
- 先行 …… [7-6-9-26]
- 差し …… [0-1-1-46]
- 追込 …… [0-0-0-42]

盛岡ダート1600m は直線に急坂も控えるが、ハイペースになりにくいコース形態から、逃げ、先行決着になりやすい。直線一気のシーンは期待しにくく、過去10 年で馬券に絡んだ30 頭のうち、27 頭が4 コーナーで5 番手以内にいた。17 年に7 番人気のノボカラが2 着、21 年に7 番人気のヒロシゲゴールドが2 着に粘った点から、人気薄の逃げ馬には注意したい。



Umfree Tohoku 5



## 5. 馬体重

- 500kg 以上 …… [9-6-6-55]
- 500kg 未満 …… [1-4-4-66]

馬体重は大きいほうが有利なようだ。500kg 未満で勝利したのは、18 年のルヴァンスレーヴだけだった。16 年、19 年のように500kg 以上の大型馬で上位独占した年もある。小柄な馬が人気を集めていたら、思い切って評価を下げるのもアリかも。

## 6. 前走レース

- GI/JpnI …… [6-3-3-20]
- GII/JpnII …… [1-2-0-10]
- GIII/JpnIII …… [3-4-4-23]
- その他 …… [0-1-3-68]

- さきたま杯 …… [2-2-0-5]
- かしわ記念 …… [1-2-1-5]
- 帝王賞 …… [1-1-2-10]
- プロキオンS …… [2-1-1-5]
- ※今年から東海Sに改称

前走でグレードレースに出走していた馬を軸に据えるのがベター。レース別では、さきたま杯組がJpnII 時代を含めて [2-2-0-5]、今年から東海Sに改称されたプロキオンS組が [2-1-1-5] と好成績を残している。グレードレース以外に出走していた馬で、馬券に絡んだのは4 頭。20 年3 着のモジアナフレイバー、23 年2 着のイグナイターは大舞台での好走歴があり、18 年3 着のメイショウウタゲ、24 年3 着のキタノヴィジョンはJRA のオープン特別で勝利した経験があった。実績に乏しい馬はやや厳しいか。

# 南部杯を制した「東北の皇帝」

## トーホウエンペラーをたずねて

### 北海道にて、青毛の名馬と再会

放牧地の奥で佇んでいた黒光りする青毛の馬体が、くるとこちらを向いた。

一步、また一步と踏み出したその歩みは静かだが、確かに、力強く地面を踏み締めてこちらを目指している。

そんな姿を最後に見たのは、2024年9月半ばのことだった。それからひと月と少しが経った頃、「東北の皇帝」トーホウエンペラーは眠るようにしてこの世に別れを告げた。

通算33戦20勝、その全てを岩手競馬所属として走り切った。デビューは3歳の12月31日と大きく遅れたが、そこから破竹の9連勝を遂げ、デビューからちょうど1年となった2000年12月31日には桐花賞を制して重賞初制覇を記録し、一躍、岩手競馬のトップホースに駆け上がった。翌2001年には朱鷺大賞典を制して交流重賞初制覇、通算では同年の東京大賞典と2002年マイルCS南部杯を含む交流重賞4勝を挙げてNAR年度代表馬に2年連続で選出され、「東北の皇帝」と讃えられた。

2002年に現役を退いてから種牡馬として14年間繋養された後、功労馬として北海道新ひだか町の静内フジカワ牧場にて余生を過ごすことになった彼には、放牧地が隣接している特別な馬房が与えられた。朝から夕方まで馬房と放牧地を行ったり来たり、自由



に出入りしながら悠々自適な生活を送っていた。初めて会いに行ったのは2023年9月。その時、すでに27歳とサラブレッドの中ではかなり高齢の部類になっていたが、こちらに向かって歩いてくるその青毛の馬体からは独特のオーラが放たれていた。かっこいい馬、それが彼の第一印象だった。

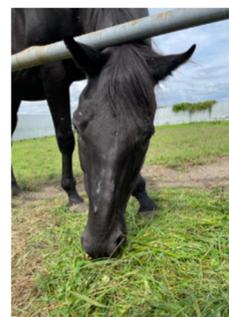
### 「同級生」と、心を通わせて

「これだけの馬だから、こうして携わせてもらっていることが嬉しい」と、優しい表情で彼のために新鮮な青草を積む藤川さんの姿もまた印象的だった。歯もすり減って食事に時間がかかるようになり、「さすがに背中少し落ちてきたけど…」と年齢による身体の衰えは隠せなくなりながらも瞳には生気がみなぎり、食欲そのものは旺盛で、この時も藤川さんと私が話す横で積み上げられた青草を一生懸命に頬



Umfree Tohoku 6

張っていた。左肩には以前からコブがあり、年齢を重ねるにつれて大きくなってきたが、幸いにも悪性のもではなかったため、年齢を考えると除去の方がリスクが高いと手術に踏み切らなかったと教えてくれた。



1996年5月11日生まれのトーホウエンペラーは、私と人間で言うところの「同級生」にあたる。老齢の彼に、一体どうして20代の私がいかに来たのか少し不思議そうにしていた藤川さんにそんなことを言うと目を細めて「そうですか、そうですか」と頷き、少し彼の方を見つめた後、「それなら好きだけゆっくりしていいね」と2人だけの空間を作ってくれた。

6歳で引退した彼の現役時代のことを当然、私は知らない。ただ、命の時間軸が大きく異なる人間とサラブレッドとの関係性において、同級生というのは、人間同士とのそれよりも大きな意味合いを持つと私は思っている。我々の年代は同級生の馬たちと会える機会が次第に少なくなり、もうじきにそんな機会が完全に失われる過渡期に入った。そんな中で、わずかでも彼と2人で共有した時間は特別なものだった。

### 皇帝は強く、美しく

静内フジカワ牧場に来て8年。岩手競馬の英雄メイセイオペラとちょうど入れ替わるようにして頭角を現した“もう一頭の英雄”に会いに来る人は、最後まであとを絶たなかった。それには彼自身の戦績や魅力もさることながら、静内フジカワ牧場が彼に施したケアや注いだ愛情が一役も二役も買っていた気がしてならない。青毛の馬体が年齢を重ねても輝くような毛艶を保ち、若々しく惚れ惚れする状態を保っていたのは、間違いなく日頃の管理の賜物だった。トーホウエンペラーが亡くなったその日、藤川さんに連絡を入れると「今朝7時に眠るように旅立って行きました」とその最期を教えてくれた。

「生まれ故郷は違えど、コアな競馬ファンの方々との御縁を繋いでくれる大切な馬でした。お疲れ様でした」

Instagramにはトーホウエンペラーのネームプレートの写真とともに、そんなメッセージが綴られていた。彼が岩手競馬に残した鮮やかな蹄跡のように、私のまぶたの裏にはあの綺麗な青毛と牧草の緑との鮮やかなコントラストが色褪せることなく焼き付いている。また岩手競馬から彼のような強く、美しく、そして多くの人から愛される名馬が現れてくれることを願っている。



Umfree Tohoku 7

# 相馬野馬追

## 観戦レポート

真夏から初夏の季節に移って2回目の相馬野馬追は、本祭の日曜日が雨予報とそれに伴う冷え込みが予想されるものでした。真夏のように暑さがあることも困り事ですが、雨が降れば蹄鉄を履いている馬達は足が滑りやすくなります。甲冑を着ている騎馬武者達も、簡単には脱着が出来ないため、身体が冷えます。

雨が降ったとしてもなんとか小雨で止まってほしいと、毎日のように天気予報と睨めっこする日々が2週間ほど前から始まります。雨がすごい、風がすごい、日曜日はほぼ雨…等良い方に予報が変わることなく当日を迎えましたが、終わってみれば日曜日のお行列が開始する頃には、雨が止んでいたのです。さすが神事と言えるでしょう。私が関わりがあるのが相馬太田神社に供奉している中ノ郷騎馬会のため、ここから話す内容は中ノ郷騎馬会のとある騎馬武者への密着記事となります。

### タイムスケジュール

#### 1日目(土曜日)

- 7時頃** 相馬太田神社へ向かうため、馬達を所定の場所へ移動、馬装開始。騎馬武者達は陣羽織に着替え
- 10時半頃** 馬と相馬太田神社へ向け出発
- 12時** 相馬太田神社から雲雀ヶ原祭場地へ向け出発(御発聲※ごはつれん)
- 13時** 雲雀ヶ原祭場に到着
- 14時** 原ノ町駅へ向けてお下がり行列
- 16時半** 宵乗り軍者会(人のみ)馬達は、原ノ町駅を16時頃出発し各々の帰路へ着きます。

#### 2日目(日曜日)

- 6時半** 人馬共に馬装と鎧の着用
- 8時半** 小川町へ向け出発
- 9時半** お行列開始、雲雀ヶ原祭場地へ向け進軍開始
- 12時半** 雲雀ヶ原祭場にて甲冑競馬
- 13時半** 同地にて神旗争奪戦
- 16時** 小高郷帰り馬行列

Umafree Tohoku 8



野馬追は、人によって、どこに何を何時にしに行くは千差万別です。祭事に関わる役職が変わったり、所謂上司のような存在の人が変われば、向かう場所も異なるため意外と動きが難しいのです。そして一つの動きが遅れば、全体の祭事の進行にも関わるため祭事に参加する騎馬武者達は時間に敏感です。前後に馬達のご飯や、掃除、祭事に参加した馬達の全身を洗ってあげて拭いてのお世話もあるので、一日中他のことをする時間がないくらい野馬追に浸る2日間となります。

野馬追を観に来るようになって、そして手伝いをするようになって6年目。

6年前までは小さく、大人に馬を引いてもらいながら乗っていた子供が大きくなり1人で乗るようになります。毎年のお祭り騒ぎな馬がいたり、甲冑競馬で毎年活躍する人馬がいたり、神旗争奪戦で毎年何本もとる人馬がいたり…馬という動物と一緒に出る祭事のため、馬と人、人と人の関わりが色濃く現れます。自宅で野馬追のために馬を飼い、毎日朝晩コミュニケーションをとりながら当日を迎える人馬もいるため、一騎の騎馬武者に注目し土日追いかけるだけでも本当に充実感のある祭事だと思います。ぜひ、勇壮で荘厳な人馬達の晴れ舞台をご観覧ください。

また、2025年の相馬野馬追については、全人馬無事に終了とはいかず、尊い一頭の馬の命が失われました。どれだけ怖い、痛い思いをしたことかとニュースを見た時は心が痛み、「どうして」という言葉しか出てきませんでした。馬たちがいなければ成立しない祭事、たくさんの方々にか愛がられてきた馬生だったことを思うと、関わったことのない私でも悲しい気持ちになります。ご冥福をお祈りします。

### ポマイカイ



中央所属馬として史上4頭目となる南部杯を連覇したベストウォーリア。そんな彼の3世代目の仔として登場したのが、2024年の岩手最優秀2歳馬に選出されたポマイカイである。

逃げて南部杯を制した父のように、スタートからハナを叩くスタイルが基本。勿論、番手からの競馬も得意とし、ネクストスター盛岡を制した際は逃げ馬をスタートからマークして直線で交わすという戦法も見せた。全国交流の舞台でも各馬に先んじて飛び出していき走りは、みちのくのG1級競走に6度出走して4度先頭争いを繰り上げた父の姿が被る。

### リケアカプチーノ

3歳馬として初めて一條記念みちのく大賞典を制するという偉業を達成したリケアカプチーノ。父はトランセンドだが、彼は珍しい記録をいくつか保持している馬でもある。そのひとつが南部杯の行われた2011年に達成したもの。

トランセンドは2025年現在、39回の歴史を持つ南部杯において唯一東京競馬場で開催された同レースを勝利した馬であるが、この年はフェブラリーステークス、ジャパンカップダートも制覇。中央で3つのダートG1級競走が実施された年にそのすべてを勝利した。それ以外にもドバイワールドカップでヴィクトワールピサと共に日本馬初となる同レースワンツーフィニッシュを決めるなどの走りを



見せた父の蹄跡を振り返ると、リケアカプチーノが成し遂げた快挙も不思議ではないように思えてくる。

## 岩手を走る 南部杯の血統馬

### フリーダム

大井に所属し、全国交流競走である留守杯日高賞を勝利したフリーダム。母であるエターナルモールは南関東で走り、2018年に浦和で行われたユングフラウ賞を勝利している。その母の父が南部杯を3勝したエスポワールシチー。

現役時代は父の速さを継いで活躍した母だったが、孫であるフリーダムにもそのスピードは受け継がれている。留守杯日高賞では先行し、上り最速で地元岩手の馬たちを4馬身引き離して優勝。今後も岩手に遠征してきた際は強敵となりそうだ。



### レジェンドバローズ



2025年9月現在、次世代のスター筆頭として挙げられているレジェンドバローズ。父は2016、17年に南部杯を連覇したコバノリッキーで、兄に岩手二冠とダービーグランプリを勝ち、東京記念や金盃も制したフレッチャピアンカと、南部杯どころか岩手競馬に深い縁のある血統と言える。

8月末に行われたビギナズカップを勝利したレジェンドバローズだが、その勝ちタイム1分26秒0は重賞昇格後の同レース史上最速。加えて、前年にポマイカイが同距離で開催されたネクストスター盛岡を勝利した際の時計も1秒4上回った。こうなると今後への期待は非常に大きくなる。偉大な父や兄を超える活躍は果たして成るか。

Umafree Tohoku 9

競馬界の推し活!  
netkeiba  
トレーディングミニ色紙  
**白毛馬一族**  
色紙コレクション

全13種類

希望小売価格  
1ボックス = mini色紙10枚入り ¥5,500 (税込)  
1パック = mini色紙 1枚入り ¥550 (税込)

※1ボックスで全種は揃いません

セレクト馬  
ソダシ号/ハヤヤッコ号/ユキチャン号  
マシュマロ号/アマンテピアン号  
シロニイ号/ゴージャス号/ハツナニ号  
プチコ号/ハイムズビーチ号

白毛馬一族  
名馬全史第4弾

トレーディングミニ色紙  
**好評発売中!**

ご購入はこちらから

企画発売：株式会社エーカム お問い合わせ：https://ekamcorp.com

色紙 Collection Vol.4  
名馬全史

〈第4弾〉週刊Gallopが撮影した  
色彩豊かな色紙となって登場  
1990~2000年代の名馬たちが

レジェンド  
蛭名正義・元騎手  
登場!

MYNOR BRAND マイネルグロン	LEMON POP レモンポップ	PARALLEL VISION パラレルヴィジョン
SUNO CHERRY サトノカルナバル	NEO UNIVERSE ネオユニヴァース	FOREVER YOUNG フォーエバーヤング
DAW A MAJOR ダイワメジャー	YAMANIN QUESS ヤマニンクレス	NAKAYAMA FESTA ナカヤマフェスタ
		BLOW THE HORN ブローザホン

全20種  
Vol.4 騎手の直筆サイン入りはランダムに激レアで封入!

1パック = mini色紙 1枚入り ¥550 (税込)

Umafree Tohoku 10

名馬コレクション

# 流星の記憶

この流星、  
誰の?



名馬コレクション  
**流星の記憶**

この流星、誰の?

この流星の持ち主は...  
**ウオッカ**  
流星の名称  
流星鼻梁小白断鼻小白

ページをめくるたびに蘇る、  
あの名馬たちの流星!

額に輝く白斑を手がかりに、名馬たちの記憶をたどる一冊。歴代の名馬から、活躍中のスターホースまで、流星に個性が光る36頭を厳選紹介。普段レースでは見過ごしがちな“顔の輝き”に焦点をあて、競馬ファンなら思わずページをめくりたいくなる新しい競走馬の楽しみ方を提案します。

掲載馬

イクイノックス・エビファネイア  
オウケンブルースリ・キズナ  
コントレイル・キタサンブラック  
タスティエーラ・トウカイテイオー  
ディーピンパクト・メイケイエール  
メロディーレーン・ヤエノムテキ ほか全36頭

**好評発売中**

競馬王編集部 編

2,980円(本体2,709円+税) ガイドワークス刊

## 菅原勲調教師

## 岩手競馬を代表する超一流のホースマン

1999年、地方馬として初めて中央G1を制した岩手の名馬、メイセイオペラ。彼を勝利に導いた菅原勲騎手は、2012年に騎手を引退した後は調教師に。今度は馬と人を作るホースマンとなった。今回は同師に騎手時代から現在までを振り返っていただき、これからの展望や目標について語ってもらった。（※本記事は書籍『もうひとつの名勝負伝説』には収録されていない、オリジナルのインタビュー原稿となります）



### 岩手を代表する騎手から 調教師への転身 プレッシャーと戦いながら 馬と人を育てる

「調教師という仕事は、なかなか責任重大です。騎手時代とは勝手が違いますね」

そう言って笑うのは、水沢・菅原勲調教師。騎手時代にはトウケイニセイ・トーホウエンペラーらとのコンビで岩手競馬ファンだけでなく日本全国のファンにその名を轟かせた。特にメイセイオペラと勝利したフェブラリーSは、今なお地方馬にとって唯一の中央G1制覇でもある。記録にも記憶にも残る、地方競馬を背負う名手であった。そんな名手も、2012年3月に騎手として現役を引退し、以降は調教師として岩手競馬を盛り上げている。

「今になって思うと、騎手はレースは任せられますが、勝っても負けても、大失敗しない限りは大きな責任を取るようなことはありませんでした。しかし調教師は、騎手選び・レース選びから責任が発生します。レース後には、オーナーに説明する必要があります。それこそ負けたレースでも、しっかりと分析して、敗因や立て直しなどをオーナーに報告しなくてはなりません。その責任を背負い続ける仕事です」

菅原調教師は日々の馬の管理において「いかに早く変化に気がつくかの勝負」と語る。馬は体調を崩しやすいが、早期に気がつき対処することが鍵を握る。「3日間気が付かないと1ヶ月引きずったりするようなことが、1日で気が付いてやれるとその日のうちに治ったりします」という菅原調教師。まさにプレッシャーの日々だという。

「ただ、騎手を辞めたことで減量しなくて良くなったのは大きいです（笑）毎週、レースが3日間あって、終わってから飲みに行くわけですが、当然ながら体重が増えます。ただし、絶対に翌週のレースまでに

戻さなくてはいけない。毎週3～4キロ増減させていたので、身体的にもかなり負担がありました。特に現役終盤の頃は大変で、解放された気持ちがありますね」

菅原さんは、叔父が岩手の調教師であり、父親がそこで厩務員をしていたという、競馬に縁の深い家柄で育った。当然、小さい頃から馬を身近で観る機会も多く、競馬場にも遊びにきていたという。父親からは「騎手になるんだ」と言われながら幼少期を過ごした。デビューするとすぐに勝ち星を積み重ね、2年目には早くも重賞ウィナーとなったが、菅原さんは周囲の支えへの感謝を口にした。

「最初の頃は緊張してあがりすぎるタイプで、そんなに上手く乗れたわけではありません。ただ、叔父がたくさん乗せてくれたのが本当に大きかったです。それこそ、良い馬も悪い馬も、色々です。やはり実戦で鍛えるということは大事で、競馬というものを覚えていく下地となりました。重賞を勝ったのも叔父の馬。よく2年目から乗せてくれたな、と思います。当時は自分も『なかなか良く乗ったな』と思っていたのですが、今振り返ると馬が強かったから勝っていたのでしょうか。ただ、そのレースでまたひとつ乗り方を覚えました。数も大事ですが、ただたくさん乗れば良いというものではありません。『なるほど、こういう感じで乗れば勝つんだな』と体験して理解することが大事です」



### 騎手として出会えた、 最高の馬 トウケイニセイ

良い馬に乗り、良いレースをする。そうして経験を積み上げ実力を身につけていく。菅原調教師の騎手時代を最も左右したのは、トウケイニセイだった。



「騎手として出会えた、最高の馬でした。あの馬に出会えていなかったら、メイセイオペラのフェブラリーS勝利もありません。トウケイニセイは逃げて勝てましたし、出遅れて後方からでも勝てました。非常に頭の良い馬で、騎手に『どんなレースでも大丈夫なんだよ』という安心感を与えてくれる馬でした。あの馬で勝利していったことで『どんな競馬になっても、焦らずにきっちり乗れば勝つ』というのを理解しました。当時は岩手のリーディングを獲得していましたが、そこから上にいくのに必要なものを、良いタイミングで教えてもらえました」

菅原調教師は、トウケイニセイを「スター性のある馬だった」と評する。まだ他の地方競馬との交流もない時代。岩手で走っているだけでも、全国から注目を集めるような馬だったという。メイセイオペラで動じずにレース運びができたことを「トウケイニセイで技術があがっていたからこそ」と断言する。一方で、メイセイオペラは他の騎手の経験を積み重ねるためにしばらくは譲っている時期があった。「今で言う3歳春には、しばらくは（メイセイオペラを管理する）佐々木修厩舎の所属騎手・渡邊正彦騎

手が乗っていました。実は元からその約束で、メイセイオペラの力があれば地元で走るうちはどう乗っても勝てるだろうから、それなら弟子に良い馬を経験させてあげようという佐々木調教師の親心によるものでした」

そして東北優駿からメイセイオペラの鞍上に戻ると、そこからさらに連勝を積み重ね、多くの栄冠を手にした。菅原調教師は、大レースで勝つための要素を「最終的には技術よりも精神的な問題」と語る。自信をつけて乗ることで、自然にその馬、そのレースに合わせた乗り方ができるようになる。

「自信が揺らいでいる状態で乗ると、結局はチグハグなレースになりがちです。そういうミスが減らすのが精神面の強さです。技術的な進歩も大事なんですが、精神的な面がとてども大事というのはそういうところにあります」

加えて必要になってくるのが「日頃、どれだけ馬に接して馬をわかってもらうか」という点。馬と多く接して、集中してレースに乗り、その経験を糧に成長する——これを毎日繰り返すことが重要だと言う。菅原調教師は「いかに気を抜かずに行っていくかど

インタビュー 菅原勲調教師

うか。すぐに変化は出なくても、何年もそういう日々を繰り返すと必ず変化が起こります。あとから振り返ると「あの時期に頑張ったからだな」と思うことの積み重ねです」と語る。

岩手から世界を目指して言葉にしながら歩む日々

引退した現在は、従業員という「人」への対応も増えた。馬だけでなく人材も成長させていく必要がある。そのためにも、厩舎のモチベーション維持には気を配っている。「目標は口にするようにしています」という菅原調教師。現在は調教師として海外挑戦を目指している。

「まずは重賞・G1に出走できる馬を送り出し続けること。そして今は地方競馬でも海外に夢を持てる時代ですから、活躍馬が出てくると当然そういったところも視野に入ります。可能性があるものは全部挑戦していきたいです。私がしっかりと夢を持たないと、そういう素質馬が厩舎に来ることはありません。そして従業員にも伝わってしまいます。世界を目指しているということをスタッフ全員と共有して、みんなで目指そうと思っています」

メイセイオペラの時代と現在で、変わったことが「中央もダートに力を入れている」という点。「当時はまだダート路線が軽視されていました。芝がダメ

だったらダート、という時代です。まだ地方馬が付け入る隙がありました」と菅原調教師。今はダート血統が流行し、ダート向けの種牡馬も人気になる時代である。レース整備や賞金の増額が進んだことで、素質のあるダート馬は中央馬主が見逃さないようになった。それでも菅原調教師は、夢を諦めずに口にし続ける。

「岩手出身の強い馬を出したいんです。競馬を盛り上げるには、何よりもまず『馬』です。良い馬がいることで、人々は注目し、集まり、ファンになってくれます。盛り上げるための色々な工夫や選択肢はありますが、根本はやはりそこにあるでしょう。岩手競馬全体で大スターとなる名馬を送り出すことを目指さないと、そういう馬は登場することはないでしょう。一人の力で何かを変えられるものではなく、みんなで想いを共有しながら努力を続けるしかないんです。『岩手から世界を目指す』と真剣に取り組む続けることで、オーナーも『それなら…』と良い馬を連れてきてくれるかもしれません。そのためにも、厩舎、そして岩手競馬の全体に夢を共有しながら頑張っていけたらと思います。応援よろしくお願いたします」

フジュージーンの活躍など、存在感を増している岩手競馬。菅原調教師の夢が一步ずつ実現に向かって近づいている——その足音を感じた。

全編が関係者取材!

手に汗握った名勝負や感動の名レース28の裏側に迫る『もうひとつの名勝負伝説～関係者だけが知る激闘の裏側』

『もうひとつの最強馬伝説～関係者だけが知る名馬の素顔』、『もうひとつの引退馬伝説～関係者が語るあの馬たちのその後』に続く、「もうひとつの競馬伝説シリーズ」の第三弾は、過去の名勝負にスポットを当てた『もうひとつの名勝負伝説～関係者だけが知る激闘の裏側』。

競馬史に残る、手に汗握った名勝負や感動の名レース28をセレクト。すべてのレースの当事者へ直接取材を敢行し、その舞台裏や真実の一端を明らかにしていきます。取材対象は、レースに騎乗した騎手の他、調教師、厩務員、調教助手な

ど。騎手のレース中の駆け引きにとどまらず、戦前の馬の様子や陣営の思惑などのバックヤードエピソード、レース後の感想なども取り上げながら、名勝負の知られざる裏側を掘り下げていく、競馬ノンフィクション書籍です。



書籍名: もうひとつの名勝負伝説  
～関係者だけが知る激闘の裏側  
発売日: 2025年5月26日  
価格: 定価: 1,980円  
(本体1,800円+税10%)  
ページ数: A5判/オールカラー  
144ページ

岩手競馬オタクがゆく!

盛岡競馬場アトリウム

おすすめスポットツアー!



指定席に課金してゆったり競馬!

3Fは有料の指定席エリア。無料ドリンクコーナーに喫煙室、テーブル付の指定席でゆとりと楽しめる。グループ席やパーティールームもあるので、人数にあわせてチョイスしよう。ただし、早い者勝ちなので注意。

4Fは会員制のクラブハウス。VIPサービスを満喫できます。お弁当と予想紙が無料。年会費と1日の利用料がかかりますが、くつろぎながら現地で競馬を楽しめる究極リッチ空間!

一般席エリアで屋内で楽しめる!

無料の一般席が端から端までずら〜っと! 無料で空調がきいて、でも画面じゃなくて生でレースが観たい!という方はこちらがオススメ。※貴重品は手元から離さないように!

Get!

売店に売っている「揚げ餅」はあまじょっぱい旨味たっぷりです。ファンも多い! 隠しグルメ的存在なので、見つけたら即買い! カロリーは競馬場を歩いて消費される。

雨の日でも現地で生で競馬を見たい!

ここならパドックもバッチリ見えます! 外のスタンド席も雨をしのげる場所があり、そちらではレースがバッチリ観れる!

- 女性トイレ
- 男性トイレ
- 多目的トイレ
- ベビーラーム
- \* 男性入室禁止

空調のきいたアトリウムでゆったり競馬

巨大ビジョンで競馬開催が観られる。テーブルとイスもあるので、暑い日など休憩しながら楽しんで屋台村やキッチンカーグルメを食べつつのんびりできる!

競馬グッズショップ!

馬やジョッキーなどをモチーフにしたグッズがもりだくさん! 売り切れのものもあるので見つけたら即買いしよう。若手のジョッキーの缶バッジとアワキーはとくにオススメです!



## 馬と人との 幸せな共生を目指す。



### 馬事文化の振興、 引退馬のセカンドキャリアを切り拓く

遙か昔から人間と密接な関係を築き上げてきた馬。様々な個性を持つ彼らは、貴重な労力・財産であるとともに、私たちの大切な家族でもありました。

時代が移り変わり近代化が進むとともに、馬は人間の暮らしから離れ、どこか遠く特別な存在となりました。今では、人が馬を見る機会が多くが競馬や祭事といった特別な場所でしょう。

競馬で頑張り続けて引退を迎えた競走馬が無事にセカンドキャリアへと進むことは、馬を愛する私たちにとって大きな課題です。

人と馬が幸せに共生するには、馬にたくさんの生きる道——すなわち、いくつもの仕事が必要になります。生きて、仕事をして、自らの食い扶持を稼ぎ出せる社会を作り上げること…それが、より多くの馬が幸せな生涯を歩めることに繋がると信じています。

馬ふん堆肥を活用した農業の促進、ホースセラピーを通じた乗馬文化の振興、引退馬のリトレーニングと再デビューの支援、サポーター・支援者を増やすための広報活動…。私たちは様々な角度から、馬の幸せを増やすための活動を続けています。セカンドキャリアへと進む選択肢を増やすことは、馬を愛する私たちの大きな使命のひとつです。

# 一般社団法人 馬と歴史と未来の会

since 2020